

## 社会科学研究所報告

### I 講演会

- 1991年7月12日 Juan A. Williams 氏  
 Staff Writer, The Washington Post  
 “Racism as a Cause of Tension and Misunderstanding in Japan-U.S. Relations”
- 1991年10月7日 Aron Broches 氏  
 Former Vice President and General Counsel of the World Bank  
 “The Legal Issue of Foreign Investment : With a Particular Emphasis on the Role of ICSID”
- 1991年10月11日 Marc Maurice 氏  
 Research Director Emeritus, National Center of Scientific Research, Paris  
 “French Engineers and Japanese Engineers within the Process of Innovation: A Societal Approach to Cross-National Research”
- 1991年10月16日 Mari Carmen Aponte 氏 Lawyer  
 “Minorities in U.S.A. : from Hispanic Perspective”
- 1992年4月30日 Randall Collins 氏  
 Professor of Sociology, University of California, Riverside  
 “Asian Route to Capitalism”
- 1992年5月8日 Sherill Cohen 氏 Visiting Fellow, SSRI, ICU  
 “Women’s Asylums in Western Societies; 1500 to

the Present”

1992年6月3日 Mark Kline Taylor 氏

Associate Professor of Theology and  
Culture, Princeton Theological Seminary

“Postmodernism and Poverty: A Christian Theologian’s Response”

## II 人事〔1991年7月～1992年7月〕

〔新任〕

安藤勝美	(所員)	国際関係論	1992年4月
河村鎰男	(所員)	国際経済・国際経営学	1992年4月
小島康敬	(所員)	日本史	1991年9月
大串和雄	(所員)	国際関係論	1992年4月
和智綏子	(所員)	比較社会・文化論	1992年4月
Arthur C. Wolfe	(所員)	国際経済・国際経営学	1992年4月
大口邦雄	(兼任所員)	数学	1992年4月
Awadh K. Saran	(客員所員)	インド思想史	1991年9月
Georg Aichholzer	(研究員)	組織社会学	1992年4月
Sherill Cohen	(研究員)	西洋近世史	1991年11月
Richard Hara	(研究員)	国際法	1991年9月
一柳直信	(研究員)	まち研運営委員	1991年12月
岡田行雄	(研究員)	まち研運営委員	1991年12月
内田聖二	(研究員)	まち研運営委員	1991年12月
☆安達かおり	(研究助手)	西洋中世史	1992年2月
☆藤本心一	(研究助手)	国際経済学	1991年11月
本田誠	(研究助手)	国際機構論	1992年4月
増田明彦	(研究助手)	社会思想史	1991年9月
☆Darrell G. Moen	(研究助手)	文化人類学	1991年8月

☆米村千代（研究助手） 家族社会学 1991年9月

〔退任〕

橋本哲一（所員） 政治過程論 1992年3月  
 Gaynor M. Macdonald（所員） 社会・政治人類学 1992年3月  
 Awadh K. Saran（客員所員） インド思想史 1992年3月  
 Joseph M. Awotunde（研究員） コミュニティ論 1992年3月  
 鈴木時男（研究員） 数理経済学 1992年3月  
 高津博（研究員） まち研運営委員 1992年3月  
 Anna M. Thränhardt（研究員） 現代日本文化論 1991年7月  
 衛観清（研究員） 国際マーケティング 1992年3月  
 小嶋嵩（研究助手） 社会倫理・宗教社会学 1992年3月  
 Robert Marshall（研究助手） 文化人類学 1992年3月  
 丸山珠里（研究助手） 国際法 1992年3月  
 ☆Denise Meagles（研究助手） 国際経済学 1991年10月  
 ☆森亜子（研究助手） 国際法 1992年1月  
 押村高（研究助手） フランス政治思想史 1992年3月  
 ☆辻山ゆき子（研究助手） 国際社会学 1991年8月

☆印は有給の研究員・研究助手

〔逝去〕

渡辺保男

## Ⅲ 刊行物リスト〔1991年7月～1992年7月〕

## Working Paper Series

- 慎 斗 範  
『オーストラリアの法制』(1991.6)
- 丸 山 珠 里 (訳)  
『国家責任に関する条約草案注釈 第3部』(1991.7)
- 丸 山 珠 里  
『現代国際法における私人の侵害行為に関する国家責任』(1991.7)
- 藤 田 忠  
“A Hydro Electric Power Plant Development Project in Southeast Asia: a Case Study” (1991.9)
- Karen Shire  
“The Social Reorganization of Production and Industrial Relations in the European Automobile Industry” (1991.9)

## Ⅳ 公開シンポジウム

1991年12月6日から8日にかけて、上智大学において「教会の社会教説100年—『労働者の境遇』(1891年)から現代まで—」と題した国際シンポジウムを開催した。上智大学社会正義研究所との共催による当シンポジウムは、今回で11回を数える。プログラムは、基調講演、「労働について」、「平和について」と題した二つのワークショップおよびパネルディスカッションからなり、内外からの多彩な参加者の間で活発な議論が展開された。

また、7月4日には、国際社会学会 (International Sociological Association) のシンポジウムの分科会がICU社会科学研究所を会場として行われた。「国際社会における権力と価値の変容」を主題とした当シンポジウムは、比較社会学研究部会、組織社会学研究部会の二部会と

合同シンポジウムから構成され、7月3日から7日にかけての5日間、上智大学、ICU、吉備国際大学の3大学が会場となった。ICUにおいては、組織社会学研究部会が持たれ、その中の一分科会と公開講演及びパネルディスカッションが開かれた。「文化とコミットメント」と題されたその分科会では、労働者の態度・意識、企業文化、政策等に関する事例研究や国際間比較についての報告が行われた。マーシャル・マイヤー氏の基調講演「行政の評価：業績のパラドックス」に続くパネルディスカッションでは、組織論における組織成果測定の問題について議論が繰り広げられた。

#### V 三鷹まちづくり研究会

1991年9月に『三鷹市と国際化—新次元への飛躍—』（第一分科会）、『三鷹市のコミュニティがめざす新たな課題を求めて』（第二分科会）、『豊かな高齢化社会の創造—「食」環境・保健福祉の連携・高齢者住宅—』（第三分科会）と題する報告書が刊行の運びとなった。また、11月30日に、「地域と大学—三鷹市とICUの場合—」をテーマとした第7回多摩学会大会を開催した。

1992年4月には、新たに第四部会「情報化と三鷹市」が発足し、大口邦雄新学長が新会長に就任した。また、今年度4月より新津晃一教授に代わり、西尾隆本学準教授が幹事となっている。